

# オオハンゴンソウ (キク科)

*Rudbeckia laciniata* L.  
(通称 ルドベキア、ハナガサギク)

英名 cutleaf coneflower  
オオハンゴンソウ属



オオハンゴンソウの  
下部の葉  
幼个体(左)と  
成長个体(右)

5~7つに深く分裂

## 特徴

北アメリカ原産の多年生草本で、植物高は50~300cm程度。

花は直径5~7cmで、黄色。  
**開花は夏から秋(7~10月)。**

地上茎の下部の葉は長い柄があり、幼个体は切れ込みが浅いが、成長すると5~7つに深く分裂。上部の葉は短い柄があるか、無柄で互生。葉の裏に短毛がある。

種子から増える他に、地下茎からの栄養繁殖でも分布を広げる。

園芸種が導入され、逸出した個体が在来植物の生育場所を奪っていることが問題となる。生育地は路傍や河川敷等で、特に湿った土壌条件で優占群落を形成し、日本各地に分布を拡大。

**諏訪湖や周辺河川の地域では特に湖岸や河川敷、畑地等で定着。**

## 駆除のポイント

1. 開花結実前(6~8月)に地下部を含めた植物体すべてを掘り取る。
2. 刈り取る場合は開花結実前(6~8月)と地上部が最大高の時期(7~8月)の年2回以上実施。
3. 刈り取りは低い位置がよい。
4. 作業時の土壌かく乱を避け、埋め戻す。